

## 「国内旅行需要喚起のための休暇のあり方について」中間取りまとめ (要約)

観光立国の実現には、観光を通じた交流人口の拡大により地域の活性化に貢献していくことが重要であり、地域の観光振興に向けた取組を地域活性化へと結実させるためにも、旅行需要の拡大を図り、地域を訪れる観光客数を増大させることが極めて重要である。昨年の12月に制定された観光立国推進基本法においても、「休暇に関する制度の改善その他休暇の取得の促進、観光旅行の特定の時季への集中の緩和」などに必要な施策を国が講じるべき旨が明記されている。

そこで、有識者及び関係各省で構成する「国内旅行需要喚起のための休暇のあり方懇談会」を2月に設置し、以下の4つの論点を軸に検討を行った。本中間取りまとめは、懇談会で有識者などから出された休暇取得の促進や国内旅行需要の喚起するための諸方策についての様々なアイデアを「提案」として整理したものである。

今後、6月の最終報告までの間に、関係者や国民の意見等を踏まえながら、各提案内容について、その実現可能性、具体的進め方や役割分担のあり方などを検討していく予定である。

本中間取りまとめの公表を通じて、休暇取得の促進や国内旅行需要の喚起につながる活発な議論や意見が広く国民の間で喚起されることを期待している。

### (中間取りまとめの骨子)

#### (論点1)

○いま何故、休暇か。いま何故、国内旅行の振興か。これらの戦略的視点を明確にする。

#### (論点2)

○休暇取得を制度的に「義務化」するのではなく、好事例の紹介や現実的なインセンティブなどにより、生産性を高めつつ休暇取得を促進するという方向をめざす。

#### (論点3)

○休暇取得を国内旅行の促進に繋げるためには、「旅に出よう」と思う国民ニーズを直接、刺激するような需要サイドに立った施策を促進するという考え方を重視する。

#### (論点4)

○その際、戦略のターゲット層(ここが動けば休暇取得促進と国内旅行振興に繋がる)を明確にし、効果的な施策を推進する。

### 論点1 休暇取得・国内旅行の意義(いま何故、休暇・国内旅行振興か)

(1)「休暇改革は『コロンブスの卵』」報告書(平成14年6月、国土交通省・経済産業省)を踏まえた休暇取得・国内旅行の基本的考え方

(2)観光立国の本格的推進に向けた新たな動きと新たな戦略視点(本懇談会の視点)

- ①観光立国推進基本法の成立と「休暇取得」、「国内旅行振興」の重要性
- ②サービス生産性向上に寄与し得る休暇のあり方の追求
- ③「人間力の時代」 休暇を取って旅に出ることで人間力を高める
- ④家族旅行を通じて子どもたちの文化・教養力を高める「<sup>ちびい</sup>旅育」
- ⑤「団塊の世代」の「自由時間資源」を国内旅行需要喚起や社会のさまざまな問題解決の起爆剤として有効活用

## 論点2 休暇取得の方策

### (1) 計画的年休取得の普及促進

### (2) ステークホルダーからの社会的評価

#### 提 案

- 年次有給休暇の取得促進

### (3) 必要なインセンティブ

- ① 労働時間の設定改善施策の普及
- ② 休暇取得と生産性
- ③ 企業の社会貢献としての休暇取得促進

#### 提 案

- 労働時間等設定改善の推進対策などを進めるとともに、これと連携して能力向上や視察研修旅行などの旅行プログラムの提供に関する協力・支援、低廉な価格で利用・購入が可能な旅行商品の開発・普及を促進する。
- 「企業の社会貢献休暇百選(仮称)」の選定と顕彰

### (4) 多様性・個性＝「ブランド」戦略

- ① 企業では＝「人間」を尊重する企業としてのポリシーが従業員や家族などに支持される
- ② 学校では＝学校の休業にも個性が選ばれる時代
- ③ 地域では＝地域の個性・独創性が求められる時代・観光交流活性化のために地域のポリシーが問われる

#### 提 案

- 個々人のメモリアル(誕生日・結婚記念日など)の休暇取得事例の収集と情報提供
- 学校2学期制の導入など学校休業の多様化・柔軟化
- 学校、家庭が一体となった臨海・林間学校の普及促進
- 地域の独自性を生かした学校休業時期の分散化
- 休暇取得時期の分散化に向けた地域の自主的な取組の推進

## 論点3 国内旅行誘導策(観光立国フランスに学ぶ)

### (1) 国内観光魅力の向上と旅文化の発信

#### 提 案

- 「旅の達人」キャンペーン“たび達”(仮称)の推進
- 人生に一度は行こう美しい日本遺産(仮称)プロジェクトの推進
- SITに訴求するテーマ性の強いニューツーリズムの創造
- 観光交流ホスピタリティー運動の推進
- 文化施設・ミュージアムや文化イベントなどによる旅行者などにとって魅力のある取組に対する協力・支援
- 障害者、介護・支援を要する人々のためのユニバーサルツーリズムの振興
- シニアのための旅支援

## (2)国内観光コストの多様化

### 提 案

- 観光需要の平準化を図り、混雑期の高価格設定を改善する
- 観光関連産業のビジネスモデルの革新

## (3)観光情報の高度化

### 提 案

- 顧客視点にたった広域観光やテーマ別・顧客属性別の観光情報など、一層の高度化を図る
- 現地での観光行動に直結した情報提供機能の強化

## (4)地域固有の歴史・文化資源の活用

### 提 案

- 地域固有の文化財などの保全・活用

## 論点4 促進イニシアティブ

### (1)戦略的ターゲット ～「ちびっこファミリー」と「子育て後の夫婦」～

### (2)戦略ターゲットに向けた休暇戦略と国内旅行振興策

#### ①30代(「ちびっこファミリー」世代)

### 提 案

- 「ちびっこファミリー」層に対するプログラム・旅行料金の割引など
- 子どもたちの「現代版グランツーリズム」の実践
- 家族旅行の意義の啓発と普及・促進
- 学期間休業時の旅行プログラムの普及と家族割引制度の普及

#### ②団塊世代の自由時間資源活用と国内旅行の誘導

##### 1)旅行牽引者としての役割

### 提 案

- 「孫」の学期間休業の時期などをターゲットとした旅行プログラム開発
- 三世代家族旅行の促進
- 文化性・テーマ性の強い旅行プログラムの普及
- 二地域居住の促進と新たな旅行需要の拡大

##### 2)30代などの休暇取得時の代替労働力としての役割

##### 3)膨大な自由時間の投資者としての役割

### 提 案

- 地域の観光まちづくり人材としての登用